

授業者と学生の相互行為がもたらす教育効果V

— 達成目標志向と受講動機の関連 —

○北神 慎司・藤田 哲也

(名古屋大学大学院環境学研究科・法政大学文学部)

大学の講義科目において、授業者と学生との間に相互行為をもたらすコミュニケーションツールの一つに授業通信が挙げられる (e.g., 藤田・溝上, 2001). 授業通信とは、毎回の授業終了時に、その授業についての質問や感想を学生に記入してもらい、それに対する教員の回答を、学級通信のようなプリントにして翌週の授業に配布するものである。本研究では、学生の達成目標志向や受講動機という個人差が、授業通信や授業そのものの評価にどのような影響を及ぼすかについて検討する。

【方法】

受講生: 2006年度前期に、心理学関連の教養科目に分類される講義を受講していた国立S大学の学生321名。

質問紙: 本研究で用いた質問紙は、次の6種類。達成目標質問紙 (田中・藤田, 2007, 日心; 受講前と受講後の2種類) は、全17項目から因子分析により、受講前と受講後の質問紙のいずれも、「遂行目標 (この授業でよい点数をとり、自分の能力を友人や先生に示したい)」、「習得目標 (この授業からできるだけ多くのことを学びたい)」の2尺度を構成した。受講動機質問紙 (授業全般と当該講義に対するものの2種類) は、「時間割」、「教員好感」、「他者推薦」、「知識深化」、「シラバス」、「単位容易」、「卒業必要」の、それぞれ7項目であった。授業評価アンケート (藤田, 2005) は、全11項目から因子分析により、「授業自体の評価 (話し方や内容、わかりやすさ)」、「受講態度自己評価 (参加態度、理解度などの自己評価)」の2尺度を構成した。授業通信質問紙 (藤田・溝上, 2001) は、全23項目から因子分析により、「コミュニケーション (感想を書くのが楽しかった)」、「授業通信への好意 (おもしろかった)」、「授業内容への関心 (授業内容への関心が高まった)」、「情報受信 (他の受講生の考えを知ることができた)」、「授業通信の必要性 (授業通信がなかったら授業がつまらなかった)」の5尺度を構成した。

なお、質問紙は、すべて、各質問項目に対して、自分自身があてはまる程度を6~1の6段階評定法を用い、授業評価アンケートは、「非常によい」~「非常に悪い」の6段階、それ以外の質問紙は、「非常にあてはまる」~「全くあてはまらない」の6段階であった。

手続き: まず、初回授業日に、受講前の達成目標質問紙と2種類の受講動機質問紙を実施した。次に、初回と最終回の授業を除く毎回の授業終了時に、授業評価アンケートを実施した。最後に、最終授業日に、授業通信質問紙と受講後の達成目標質問紙を実施した。

【結果と考察】

まず、受講動機質問紙について、授業全般と当該授業を比較するため、項目別の評定平均値を図1に示した。この結果から、授業全般の受講動機と比較して、当該授業は、「時間割上この授業以外に受講できないから」、「卒業のために必要だから」という項目において、平均値が低いことが特徴的であると言える。

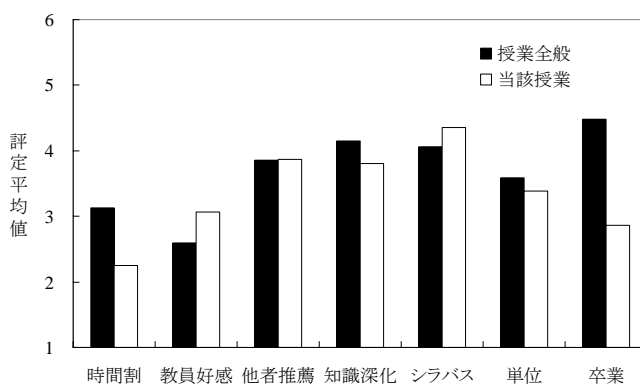


図1 受講動機質問紙の各項目における評定平均値

次に、学生の受講前の達成目標志向が、受講動機にどのような影響を及ぼしているかを検討するため、次のような複数の重回帰分析を行った。従属変数は、当該授業に対する受講動機7項目の得点それぞれで、独立変数として、初回達成目標の2尺度 (初回遂行目標および初回習得目標) を用いた。

その結果、受講動機「時間割」、「知識深化」、「シラバス」、「単位」、「卒業」をそれぞれ従属変数とした場合に、「初回習得目標」のみが独立変数として、5%水準で有意な影響を持つことが示された (それぞれ、 $\beta = -.213$, $\beta = .321$, $\beta = .377$, $\beta = -.311$, $\beta = -.195$)。すなわち、授業からできるだけ多くのことを学びたいという達成目標の意識が強ければ強いほど、受講動機として、「当該専門分野の知識を深めたかったから」、「シラバスを読んで興味を持ったから」という理由を多く挙げ、これとは逆に、「時間割上この授業以外に受講できなかったから」、「単位取得が容易そうだったから」、「卒業のために必要だったから」という理由はあまり挙げない、ということが示唆された。